

「表現する力」を育てる算数科授業の創造
 ～問いから学びを深める児童の育成～
 千歳市立緑小学校 学級数 15 (校長 渡曾 朋広)

I 実践の趣旨

本校は、各種調査の結果を踏まえ、児童の「表現する力」を育成するために、予習と関連させた授業づくりを推進している。児童が日常的に予習に取り組むことにより、学習内容について理解できた点と分からない点を明確にすることができ、予習で生まれた児童の「問い」を教師が単元構想や振り返りの場面に生かすことにつなげるなど、児童の問いを軸にした授業づくりを進めている。また、授業において、児童が問題解決の際に活用することができるよう、算数の用語や記号などを「コトバンク」として位置付け、協働的に解決する場面を意図的に設定することにより、児童の表現力の育成につなげている。

II 実践の概要

1 児童の「問い」を軸にした授業づくり

- ・予習と関連させた単元構想
- ・「問い」を深める授業の組み立て
- ・新たな問いに向かう振り返り場面の設定

給食後に 10 分間を予習の時間として日課表に位置付け、全校一斉に実施している。予習の内容は、単元及び本時において育成を目指す資質・能力を踏まえるとともに、評価規準と照らし合わせて、「知識・技能」は予習 A、「思考・判断・表現」は予習 B とするなど、予習と授業を通して、指導と評価の一体化を図っている。

授業づくりについては、1 単位時間を、4 つのユニットで組み立て、問題解決型の授業を構成している。予習を通して子どもが「問い」をもち、授業を通して学びを深め、自己の学びを振り返ることによって、新たな「問い」をもつという連続性を大切に構成にすることで、さらなる「問い」の深まりにつながっている。

また、授業の終末場面では、児童が次の学びへの意欲をもつことができるよう、振り返りの視点を明確に示すなどの工夫をしている。

2 表現力を高める指導の工夫

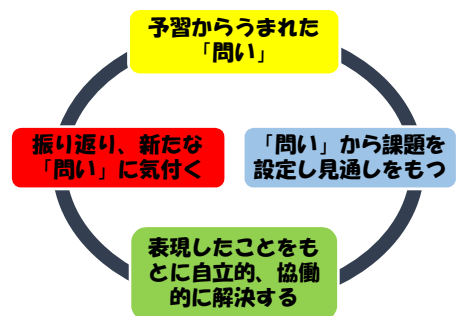
- ・表現力を高める板書とノートづくり
- ・自立的、協働的に解決するための「コトバンク」の活用
- ・思考を深め、表現力を高める発問

本校においては、図や式、表やグラフ、言葉で表現することに加え、児童が自分の考えを基にして、対話的な活動を通して表現力を育成することを目指している。

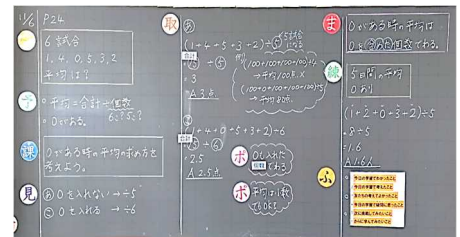
具体的には、学習カードの活用及び構造的な板書をパターン化することにより、1 単位時間における学習の流れを児童が視覚的に捉えることができるよう工夫するとともに、「思考力・表現力を伸ばすノートづくり」という視点から、ノートづくりを通して、考えを整理したり、伝えたりしながら表現力の育成を目指している。また、解法の見通しや各単元で学ぶ算数用語等を「コトバンク」として位置付け、対話的な学びの中で、「コトバンク」を活用し、自らの考えを伝えることができるよう工夫している。

III 実践の成果と課題

- 資質・能力の育成に向けて、1 単位時間のユニットで想定される児童の「問い」を意識しながら授業をデザインすることについて、全教職員で共通認識をもち、授業改善を進めることができた。
- 予習をする中で、前時と本時の違いに着目させることにより、児童の「問い」が明確になり、予習と授業との円滑な接続が図られ、児童の学びを深めることができた。
- 児童の発達の段階によって、予習の方法に違いをもたせる必要があることから、デジタル教科書等を活用したり、教科書に書き込ませる方法を教えたりするなど、工夫する必要がある。



【1 単位時間のユニット】



【流れが分かる板書の工夫】

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 ～言語活動の充実を通して、互いに学びを深める授業づくり～
 安平町立追分中学校 学級数5 (校長 渡辺 知峰)

I 実践テーマの趣旨

本校は、「実現する子どもの姿」をイメージしながら、“何ができるようになるか”を明確にし、カリキュラム・マネジメントを通して、“何を学ぶか”という学習内容とともに“どのように学ぶか”という学びの過程を重視した実践に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指している。その実現に向け、具体的方策を示した安平町教育委員会作成の「安平町ハンドブック」を活用し、教員の協働による指導過程を重視した授業改善を行っている。

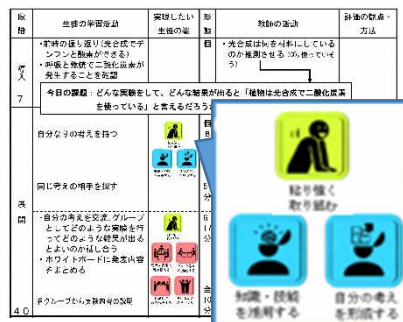
II 実践の内容

1 「安平町ハンドブック」に基づいた単元の指導計画の整備・充実

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「実現する子どもの姿」を位置付けた単元の指導計画の作成及び学習内容のまとめりごとの評価規準を作成し、指導と評価の一体化を図った。

(1) 「実現する子どもの姿」を共有するための工夫

単元の指導計画の簡略化を図りつつ、全教職員が単元のねらいを共有できるよう、独立行政法人教職員支援機構の資料に掲載されているピクトグラムを単元の指導計画及び本時案に掲載し、「実現する子どもの姿」の具体的なイメージの共有を図った。



【ピクトグラムを位置付けた学習指導案】

(2) ねらいを明確にする工夫

計画的かつ効果的に「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を配列して授業改善を行うため、国立教育政策研究所の「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」に基づき、単元の目標及び評価規準を設定し、学習内容のまとめりごとのねらいの明確化を図った。

(3) ねらいを実現するための工夫

ピクトグラムに示されたねらいとする子どもの学びの姿の実現に向け、自己の考えを深め広げる「対話的な学び」や、見方・考え方を踏まえた「深い学び」の視点から言語活動の工夫を行った。

2 アンケートを活用した検証改善サイクルの確立

(1) 生徒の授業評価アンケートの実施と分析・考察

研修部が中心となって生徒への学習に関するアンケートを年4回実施し、分析結果から子どもの変容を見取り、授業改善に活用するなど、組織的な検証改善サイクルを確立し、カリキュラム・マネジメントの充実を図っている。

アンケート項目 「今日とはどんな内容を学習するのかが分かる」
 「話し合いの場面では、何を・どのように話し合ったらよいか分かる」
 「他の人と意見を交流することで、自分の意見を深めることができている」
 「まとめや振り返りの時間で、その日の学習内容が整理できている」

(2) 経年変化の分析・考察を踏まえた改善への取組

アンケート項目における同一集団の経年変化について分析することができるよう、教科及び学年ごとに結果を集計、分析し、校内研修において課題や今後の取組を協議して学校全体で共有を図った。

3 言語活動の充実資する取組の実施

授業における言語活動の質の向上を図ることを目的に、月1回、学級でソーシャルスキルトレーニングを行い、円滑に人と関わるスキルを身に付ける取組を実施した。



【ソーシャルスキルトレーニングの様子】

III 今後に向けた成果 (○) と課題 (●)

- 実現を目指す子どもの姿をイメージした単元の指導計画を活用したことにより、学校全体で授業改善の方向性について共有を図ることができ、また、教職員の組織的、計画的な授業改善に向けた意欲の醸成につなげることができた。
- 言語活動の工夫を図ったことにより、協働的な学びの場面において意欲的に取り組む姿が見られた。
- 日常的な授業改善の取組の推進及び取組に対する検証の方法を工夫する必要がある。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた
日常的な読解力の育成の取組
えりも町立笛舞小学校 学級数4 (校長 岡田 智英)

I はじめに

本校は、全国学力・学習状況調査や町で独自に実施している学力調査等の結果の分析から、児童の読解力に課題があることが明らかとなった。そこで、文章を読んで理解したことを基に自分の考えを深めることを目的とした話し合いの場面で、友だちの考えを基に自分の考えを深める活動を充実させることを通して、学校全体で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組を進めている。

II 実践の概要

1 個人カルテの作成

町で独自に実施している学力調査の結果や学習の様子を記載した個人カルテを作成した。授業や補充学習を実施する際、児童一人一人の課題に合わせた学習内容の提示や指導方法を工夫するために活用した。

2 国語科の授業改善

児童の読解力を育成するため、文章を読んで理解したことを基に自分の考えを深める活動として、国語科の授業で、ノートやワークシートに登場人物の言動を図示し、文章を構造化する「図読法」を用いるなどして、読解力の育成を図った。

3 話し方・聞き方モデルを活用した話し合い活動の取組の充実

文章を読んで理解したことを基に自分の考えを深めるため、感じたことや考えたことを交流する際、話し合いの手順を明確にした話し方・聞き方のモデルを教室に掲示した。

各教科等の授業だけでなく、学級会や委員会活動でも活用し、個々の考えをグループの意見としてまとめたり、質問を通して考えをつなげたりすることで、友だちの考えを基に自分の考えを深める活動の充実を図った。

III 実践の成果と課題

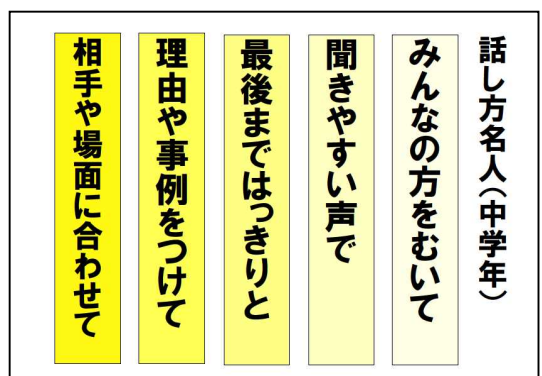
- 児童の個人カルテを作成し、児童の実態に合わせて学習内容を提示したり、指導方法を工夫したりしたことにより、児童が、自身の課題を把握するとともに、主体的に学習に取り組むことができた。
- 国語科の授業改善の取組を行ったことにより、児童は長文を読むことへの抵抗感が薄れ、自信をもって読解に取り組む姿が見られるようになった。
- 話し合い活動で一人一人の考えが十分に深まらないことがあるため、児童に身に付けさせたい内容を明確にして、話し合い活動を設定する必要がある。



【補充学習の様子】



【国語科授業の様子（高学年）】



【話し方モデル（中学年）】